

## 三溪園と美術

講師：三溪園（公益財団法人三溪園保勝会）学芸員 清水緑様

原三溪市民研究会の活動を三溪園の側から支えてくださっていた清水緑さんが、この10月で三溪園を退職します。三溪旧蔵の美術品を保存しながら研究してきた立場から、三溪園の知名度や魅力について語っていただきました。



三溪や三溪園は、どの程度知られているのでしょうか。清水さんが三溪園で働き始めた頃、展覧会のために作品を借りようと他機関に電話すると、産経新聞とよく間違えられたそうです。それから15年が経ち、今では「ああ、三溪園ですか」と言われるようになったそうです。

清水さんが三溪園に縁を感じたのは、学生時代に研究対象としていた酒井抱一筆の六曲一隻屏風《月に秋草図屏風》（重要文化財）が、三溪の『美術品買入覚』に記録された「弍千円 抱一六枚折」だったこと。売立の時期と三溪が入手した時期が一致するそうです。

三溪園の魅力は、三溪が描いた書画や『買入覚』のような一次資料があることだと、清水さんは言います。三溪が「美や自然は共有すべきものだ」と考えたように、これからも続いていくことでしょう。



三溪園を離れる清水緑さん（右）に花束が贈られました。  
プレゼンターは片岩会員（左）です。